

9月14日（月）招待講演「国際金融都市大阪に向けた大阪府の取り組み」

大阪府政策企画部戦略調整局

国際金融都市推進チーム

参事（国際金融都市担当） 柏木佑太氏

国際金融センターをめぐる競争環境は大きく変化している。2008年のグローバル金融危機以降、主要国では金融規制の再編が進展するとともに、ブレグジットや米中対立に象徴される地政学的変化があり、さらにはデジタル化・資産運用業の高度化を背景に、世界の先進市場で金融機能の再構築が進みつつある。こうした環境変化のもとで、わが国においても東京一極型の金融集積のみならず、地域特性を活かした国際金融拠点を形成する重要性が改めて認識されている。

大阪府は近年、「国際金融都市 OSAKA」構想を掲げ、海外の金融機関や資産運用業者の誘致、スタートアップへの支援、英語対応を含む行政環境の整備、さらには関西圏における金融・産業と大学を結ぶエコシステムの形成にも取り組んでいる。これらの政策は、単なる企業誘致政策にとどまるものではなく、わが国の市場競争力の強化、資産運用立国政策、地域経済の高度化、さらには金融市場インフラの再編とも深く関係する重要な政策課題として位置付けられる。

証券経済学会創立60周年記念大会に際し企画された本招待講演では、大阪府政策企画部において国際金融都市政策を担当されている柏木佑太氏をお招きし、行政の実務的視点から、国際金融都市構想の形成過程、政策推進上の課題、国内外の金融機関との連携、ならびに今後の展望についてご講演をいただく。柏木氏は、国際金融都市推進チームの中核として、官民連携による誘致活動や制度整備、海外関係機関との調整業務等に携わっておられ、政策の現場に基づく貴重な知見をお持ちである。

これまで証券経済学会は、証券市場の制度、市場間競争、資産運用産業、金融センター機能などをめぐる研究蓄積に重要な位置づけを与えてきた。国際金融都市政策は、こうした研究領域と実務を接続する現代的な課題でもあり、本講演は、わが国金融資本市場の将来像を考察する格好の機会となろう。

会員各位におかれては、本招待講演を通じて、大阪における国際金融都市構想の現状と課題に触れるとともに、証券分野の学究の観点から活発な議論へと発展することを期待する。